



新春 対談

筑西市長

須藤 茂

野尻 智紀
レーシングドライバー



あけましておめでとうございます。
今年「道の駅」のオープンや茨城国体、全国報徳サミットの開催を控えています。市民のみならず、市民のみなさまとともに、「よりよい筑西市」の実現に邁進してまいりますので、一層のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

筑西市長

須藤 茂

新春特別企画として、国内最高峰の自動車レース「SUPER GT」と「全日本スーパーフォーミュラ選手権」の2つの舞台で活躍する、筑西市出身のレーシングドライバー野尻智紀さんと須藤茂市長の対談を紹介します。

市長…まずは、11月に「ツインリンクもてぎ」で行われたSUPER GT・GT500クラスでの優勝おめでとうございます。

最終戦での優勝ということで、来シーズンにもつながる結果だったのではないのでしょうか。
野尻…ありがとうございます。SUPER GTではシーズン成績も自己最高の3位になることができましたが、まだまだ上を目指さなくてはいけないと思っています。

市長…本日の対談で、市民のみなさんにも野尻さんの活躍を知っていただければと思っています。

まず、野尻さんとレースの出会いについて、教えてください。

野尻…僕がレースと出会ったのは、5歳のときに、家族でつくばのカート場に出かけたときですね。両親によると、水泳や柔道など、何をやっても長続きしなかった僕が、初めて夢中になっていったそうです。

市長…そのころから才能があったんでしょうね。

野尻…そんなことはないのですが、楽しかったということはよく覚えています。週末になれば家族でカート場に通っていました。





レース直前の真剣な表情の野尻さん。プレッシャーやチームの期待、ファンの声援を力に変え、過酷な戦いに挑みます。

今年は時代の変わり目 交流人口を増加させたい



筑西市長 須藤 茂

市長…野尻さんは、全国各地を転戦していますが、筑西市に戻ってきて改めて感じる本市の魅力などありますか。

野尻…筑波山を見るとほっとしますね。帰ってきたんだなと思います。子どもたちが遊べる公園がたくさんあることも魅力で、これ以上ない良好な環境だと思います。あとは、全国を転戦する者としては、都心から近くて移動が便利で、程よい距離感ですね。

市長…食べ物などはいかがでしょう。

野尻…もちろん食べ物もおいしいですね。地元の食べ物で言え

ば、やっぱり地元関城の梨が大好きです。今話題の下館ラーメンも気になっています。

市長…改めて、筑西市は恵まれたところなのだと思います。

今、外国からのお客さんを迎え入れて交流人口を増やそうという動きが日本各地で見られます。野尻さんは外国人レーサーとの交流もあると思いますが、彼らはどのようなところに日本の魅力を感じているのでしょうか。

野尻…やはり、外国人選手は日本の食事や伝統文化、自然などにすぐく興味があるようです。そのまま日本が好きになって、



元F1ドライバーで監督の鈴木亜久里さん（中央）とチームメイトの伊沢拓也さん（左）

来年も日本でレースをしたいという選手も多くいます。もちろん日本のレースのレベルが高いというのもあるでしょうけど。
市長…なるほど。筑西市でも、今年はいよいよ「道の駅」が完成します。「道の駅」を中心に市の交流人口を増やすことができればと考えています。野尻さんにも、大いに筑西市をPRしてもらいたいと思っています。

野尻…僕が現役でなければできないこともあるし、何より結果を出し続けなくては評価されな

のじり ともき
野尻 智紀さん (犬塚)

野尻…残すところは日本一しかないと思っています。もう手の届くところまで来ていると思いますので、そこを目指してしっかりやっていきたいですね。

市長…チャンピオンになったら、稲荷町通りで凱旋パレードができたらいいですね。

野尻…あー、嬉しいですね。ぜひやってみたいです。

市長…最後に、筑西の子どもたちに向けてメッセージをお願いします。

野尻…どんなことでもやりたいものがあつたら、正直に親に話



▲ 11月11日にツインリンクもてぎで行われたSUPER GT・GT500クラス最終戦で優勝したロフィーを掲げる野尻さん（中央左）。今シーズンは2勝を上げ、最多勝に輝きました。